



JR桑園駅から徒歩5分と利便性も高い

## 脊椎疾患 腰痛

医療法人社団くわのみ会

### 桑園整形外科

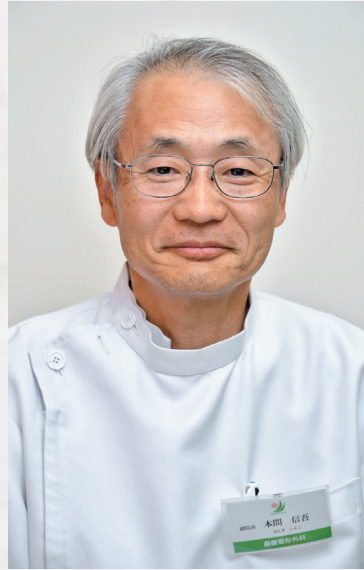
札幌市中央区北8条西16丁目 ☎011-633-3636

<http://www.dr-azuma.net>

# 本間信五

院長

## 痛みと共に精神面のケアを 医療本来の治療を実践

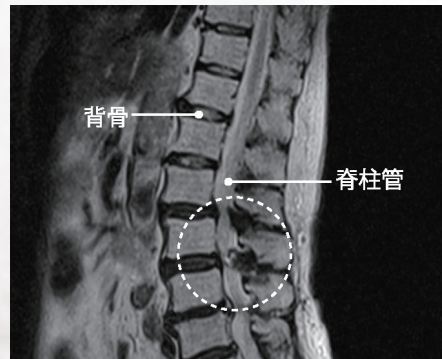


ほんま・しんご／1977年北大医学部卒業。北大医学部整形外科医局入局。79年アイオワ大学留学（脊椎バイオメカニクス）。80年市立札幌病院整形外科部長を経て、2009年桑園整形外科副院長に就任。11年医療法人社団くわのみ会名譽院長に就任。日本整形外科学会認定医。日本くわマチ登録医。日本整形外科学会脊椎・脊髄認定医。

老若男女を問わず、人間の約8割が経験すると言われる腰痛。腰痛の原因は生活環境やストレス、姿勢のゆがみなどさまざまだが、中でも近年増加傾向にあるのが「腰部脊柱管狭窄症」だ。特に中高年に多いことから、加齢が原因と言われている。

「神経の通り道である脊柱管が加齢と共に狭くなり、神経を圧迫し腰痛を発症。歩くと下肢に痛みやしびれが起こり、休むと軽減されるのが主な症状です」と解説するのは桑園整形外科の本間信吾名譽院長。30年以上にわたり、数多くの脊椎疾患や腰痛の治療に携わってきており、市立札幌病院での

勤務医時代を含めると脊椎手術の実績は5000例以上。現在でも年間1000例以上の手術をおこなっている。多くの執刀実績を持ちつつも「症状がなかなか改善しないからと言って、すぐに身体に負担のかかる外科的手術に移行するのは危険」と訴え、切らない保存治療を基



椎管が狭くなり神経を圧迫。腰痛や歩行困難な状況になる

本方針とし、患者一人ひとりの症状に合わせた治療を実践している。腰部脊柱管狭窄症にも、「運動療法や神経ブロック療法、生活指導などの保存療法を中心に治療をおこない、痛みが残る場

合のみ手術を勧めています」と話して。続けて「患者にとって強い立場にある医師の決定だけが、治療のすべてとならないように常に謙虚であることが必要です。患者の治療に対する要望や不安などもヒアリングし、理解してあげることが大切ですよ」と、インフォームドコ

ンセントの重要性を語る。患者やその家族との対話を重ね、治療のストレスや悩みを共有し、原因と治療方法を説明していくという、精神面のケアを重視する医療本来の治療を推し進める。「人は身体に痛みがあると不安になります。精神的な弱みや思い込みは症状をさらに悪化させます。まず治療への不安を取り除くことが先決です」と、あくまでも「患者本位」を貫く。